

クリスマスマーケットを幕開けとして、街はいよいよクリスマスの雰囲気に包まれ始めます。今月はクリスマスマーケットの様子と、私のクリスマス休暇についてお伝えします。すこしでもドイツのクリスマスの雰囲気を感じとってもらえれば幸いです。

Weihnachts Markt

マーケットには飲食のお店がたくさんあります。なかでも私のオススメは、**Räucher Lach**（スモーク・サーモン）と **Gebrannte Mandeln**（焼きアーモンド：写真下半分）です。鮭は薪を使ってその場で焼かれているので、香りに連れられてついつい食べたくなります。焼きアーモンドも香ばしく甘い香りで誘惑してきます。シナモンや蜂蜜、ココナッツなどの色々なトッピングを食べ比べるのも楽しいです。



屋台以外にも、ドイツの伝統的なおもちゃや人形、ツリーの飾りなどが並んでいます。最もよく知られているシンボルは、**Krippe**（クリッペ）という、キリストの誕生シーンを表現した模型です。木でできたものが多いですが、なかにはピーナツの殻で作られたものもあるそうです。



また **Weihnachtspyramide**（クリスマス・ピラミッド）も有名です。写真のものは大きいですが、実際は家庭用の飾りとして親しまれています。ピラミッドの周りのろうそくに火をともし、それによって生じる上昇気流を利用して、上のプロペラが自動的に回転する仕組みになっています。私も小さいものを購入して、寮の部屋でろうそくの火を見ながら癒されています。

この他にも **Adventskranz**（アドベント用のろうそく）、**Adventskalender**（アドベントカレンダー）、**Plätzchen**（クッキー）がドイツのクリスマスには欠かせません。**Hamburg** の冬は、どんよりとした空模様と刺さるような寒さが続いていて時々気分が落ち込みますが、クリスマスの雰囲気を楽しんでいるときは、少し心が温まるような気がします。

Fröhliche Weihnachten! ～ドイツ流クリスマスの過ごし方～

24日からクリスマス休暇が始まりました。ドイツ人学生の多くは、家族と共に過ごすために、ハンブルクを離れていきました。次に会うのは年明けなので、“Frohne Weihnachten und guten Rutsch ins neue Jahr!(メリークリスマス、そして良いお年を!)”という挨拶をよく交わしました。

私のクリスマスはというと、日本人留学生と、ハンブルクに残ったドイツ人の友達、マルセルさんと過ごしました。マルセルさんがドイツ流のクリスマスの過ごし方を、習慣から料理のメニューまで細かく教えてくれました。



なかでも特に印象に残った、教会での「Krippenspiel(子どもたちによるキリスト降誕の劇)」について紹介したいと思います。

普段教会に行かない人でも、24日の夕方には教会に行き、歌を歌い、Krippenspielを見るのがクリスマスの定番だそうです。驚いたのは、この劇、誰が何を演じるかをその場で決めていたことです。まず神父が、子どもたちに「君たちの協力が必要なんだ、演じたい子はいるかい。」と聞くと、それまで静かに座っていた子どもたちが勢いよく手を挙げ、我こそはとアピールしていました。気づけば席に着いている子どもはほとんどおらず、ヨセフとマリアをはじめ、天使、星、3人の王様を演じるための準備をしていました。



キリスト誕生の物語は、神父によるナレーション、参加者全員による歌、そして子ども達による劇でもって進んでいきます。歌のなかには聞いたことのあるメロディもあり、「きよしこの夜」をドイツ語で口ずさみながら、自分がドイツ語を学習し始めたときのことを思い出し、しみじみと感じていました。



教会から帰ると今度は、Krippenspielの復習として絵本を読みました。マルセルさんが私たちのために本を用意してくれ、それを一人一人が段落ごとに音読、翻訳していったので、本を読み終わった頃にはみんなへとへとです。その後も、ろうそくを灯しながら、ランダムでプレゼントを交換するWichtelnをしたり、茹でソーセージとジャガイモでドイツらしい食事をしたり、クリスマスの雰囲気を堪能しました。